

八戸

エネルギー施設の 現状に理解深める

八学大で初の
原燃出前授業

日本原燃は8月28日、八戸学院大でエネルギー出前授業を開いた。同大では初めて実施し、参加した学生ら20人余りが青森県内のエネルギー関連施設の現状について理解を

深めた。

主に2年生を対象とした地域経営学部夏季集中講義の一環。六ヶ所村の核燃料サイクル施設を見学するのに先立つ事前学習を兼ね、六ヶ所原燃PRセンターで案内スタッフを務める葛西桃子さん(29)が講師役を務めた。

学生は下北半島に立地する多様な施設の役割や使用済み核燃料が再処理される工程などを学んだ。2年の大里優衣

さん(19)は「再処理工場の建物が分散して立っているのを初めて知った」と驚いた様子だった。

八戸学院大で初めて開かれた日本原燃の
エネルギー出前授業

原燃のエネルギー出前授業は高校生以上を対象に2007年度から開催。小中学生向けの放射線出前授業と合わせ、これまで延べ約3万5千人が受講している。

(藤野武)

